

Active Learners が巣立つ、 立命館附属校平和教育

—— 附属校平和教育研究会と附属校平和教育実践展示を振り返って ——

岸田 康子

学校法人立命館 一貫教育部副部長

鳥井 眞木

学校法人立命館 一貫教育課担当課長

1. 立命館の附属校 ～1小4中高～

立命館の附属校は、小学校が京都市北区、中学校・高等学校は京都府長岡京市と宇治市、北海道江別市、滋賀県守山市に位置しており、附属高校のうち3校がSSH（スーパーサイエンスハイスクール）指定、1高校がWWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業採択、1高校がSGH（スーパースーパーグローバルハイスクール）指定、1校がユネスコスクールの指定をそれぞれ受けており、小学校では英語教育とプログラミング教育を開校当初から行っている。また、高学年対象にオーストラリアへのターム留学も実施している。

立命館の附属校では最先端の国際教育や科学教育が日常的にあるなかで、教学理念「平和と民主主義」はすべての教育実践に通底している。立命館中学校・高等学校（1905年開校、現在のキャンパスは京都府長岡京市）と小学校の正門そばには、アンネ・フランクの平和への願いを受け継いで大切に育てている「アンネのバラ」が黄金色、サーモンピンク、赤へと花卉の色を変えながら咲いている。立命館宇治中学校では、2010年8月、生徒会代表が広島平和集會に参加した際、被爆アオギリの存在を知り、同年12月10日、平和集會を開催し、広島市からいただいた被爆アオギリの苗木を立命館宇治中学校・高等学校の校庭に植樹した。

2. 「立命館大学国際平和ミュージアム」の 設立理念と附属校の平和教育

1992年5月19日（本学創立記念日）、世界初の「平和のための博物館」として「立命館大学国際平和ミュージアム」が誕生した。その設立理念は「平和創造の面において大学が果たすべき社会的責任を自覚し、平和創造の主体者をはぐくむため」とされている。

十余年の社会教育展示施設としての活動を経て、2003年4月、常任理事会で「第1期リニューアル計画」が承認され、「国際平和ミュージアム高度化推進委員会答申」に基づく高度化を推し進めることとなった。2005年2月1日、京都府教育委員会より「博物館相当施設」の指定も受け、4月9日からリニューアル後の一般見学を再開した。

「第1期リニューアル」は、現代社会の平和課題に対して、これまで以上に積極的な展示内容・解説手法・ミュージアム機能をもって、暴力の実態やその原因を知るとともに、解決に向けて「自分に何ができるか」を来館者が主体的に考え、平和のための一歩を踏み出す場となることを目指した大幅なものであった。

具体的には、2階に平和創造展示室「平和をもとめて」を新設し、「無言館／京都館 いのちの画廊（アトリエ）」（長野県上田市 戦没画学生慰霊美術館「無言館」京都館）、「平和ギャラリー」、折にふれて様々なテーマで開催される企画展示のための

「ミニ企画展示室」を併設した。

1) 附属校の平和教育活動の目指すものとそれを支える体制

立命館は附属校として、立命館中学校・高等学校（1905年私立清和普通学校を前身とし、1952年立命館神山中学校・高等学校、立命館夜間高等学校を立命館高等学校、立命館中学校に統合）、立命館宇治中学校・高等学校（1995年高校開校、2003年中学校開校）、立命館慶祥中学校・高等学校（1996年高校開校〈立命館大学慶祥高等学校〉、2000年中学校開校）、立命館守山中学校・高等学校（2006年高校開校、2007年中学校開校）、立命館小学校（2006年開校）を設置している。（以下、立命館小、立命館中高、宇治中高、慶祥中高、守山中高と表記する場合がある）

立命館は、「平和と民主主義」の教学理念を小学校・中学校・高等学校・大学・大学院の一貫教育の中心に据えており、社会の進歩・人類の福祉を目指す真の教育・研究は、「平和で民主的な社会」であってこそ初めて達成できると考えている。附属校教育は、児童・生徒一人ひとりの人格を大切に、その健やかな発達・成長を促すことが大前提である。児童・生徒自身の持っている力、持つことができる力に信頼をおき、困難があっても向上しようとする子どもたちの自主・自立を教育目標の一つとしている。

2003年度から、国際平和ミュージアム評議会委員に新たに西脇 終 中等教育担当常務理事（役職当時）、ミュージアム運営委員に花上 徳明 中等教育部副部長（役職当時）をおき、附属校の平和教育についての検討を行うこととなった。（2019年度は、小畠 敏夫 一貫教育担当常務理事、岸田 康子 一貫教育部副部長が担当）

初等・中等教育機関においても「大学立の平和のための博物館」を持つ総合学園の優位性を活かした教育創造を発展させるため、国際平和ミュージアムの「平和教育・研究セクター」の下に、附属校専門委員会（専門委員は大学教員と附属校教諭）をおき、2006年度から「立命館附属校平和教育研究会」を

スタートさせた。大学教員の協力のもと、国際平和ミュージアムを中心として取り込まれる、幼児期から大学までの発達段階に応じた「包括的平和教育」および「地球市民教育」の枠組みの検討と、附属各校での平和教育実践の交流が進展した。そこで各校での実践成果について、2007年度を第1回として、「立命館附属校平和教育実践展示」（小学校は、2008年度第2回から参加）を開催することとなった。毎年秋季の約2か月にわたり附属5校が順番に展示し、2019年度はその第13回を開催した。

一方で、「各附属校の平和教育の実践についての情報交換、意見交流するうちに、『我々の取り組みを共有し、平和教育における立命館の一貫教育を展開できる素地をつくろう!』という話になり、このような実践報告書をまとめようということになり」、『学校法人立命館附属小学校・中学校・高等学校平和教育実践報告書』（2007年）を取りまとめるに至った。（編集後記：竹中 宏文 初等中等教育部長〔役職当時〕）

平和教育実践についての報告書

『立命館小学校 中学校・高等学校の平和教育実践展示』（Vol.1 2007年、Vol.2 2012年発行）

Vol.1 2007年 報告

1. 学校法人立命館小学校 中学校・高等学校の平和教育実践報告書の発行にあたって 立命館大学国際平和ミュージアム 館長 安斎 育郎
2. 立命館慶祥中学校・高等学校における平和教育実践報告—高校1年「地球市民」に焦点を当てて 立命館慶祥中学校・高等学校 教諭 片岡 徹
3. 立命館宇治高校での平和教育の実践 AP科目「平和開発論」 立命館宇治中学校・高等学校 教諭 杉浦 真理
4. 立命館中学校・高等学校における平和教育実践報告 立命館中学校・高等学校 教諭 山本 一之
5. 立命館小学校における平和教育実践報告—ワールドウィーク（スリランカプロジェクト）

6. 編集後記 学校法人立命館初等中等教育部長
竹中 宏文

Vol.2 2012 年 報告

1. 学校法人立命館小学校 中学校・高等学校の平和教育実践報告書の発行にあたって 立命館大学国際平和ミュージアム 館長 高杉 巴彦
2. 附属校平和教育研究会到達点 立命館大学国際関係学部 准教授 秋林 こずえ
3. 中等教育の学校における平和教育の課題について（アジア太平洋平和研究学会 2011 年研究大会特別セッション）2011 年 10 月 16 日 会場：国際平和ミュージアム
[報告] 立命館附属校における平和教育研究会の到達点・概要
 - ①実践報告
立命館宇治中高 教諭 杉浦 真理
 - ②実践報告
立命館慶祥中高 教諭 山口 太一
 - ③実践報告
立命館中高 教諭 田中 京平
4. 立命館守山における平和教育実践報告書—「平和学」に基づく平和教育— 立命館守山中高 教諭 堀 謙一
5. 立命館小学校における平和教育実践報告—小学校 3 年生 昔の暮らし— 立命館小 教諭 山崎 諒介
6. 第 69 回ミニ企画展示「第 5 回立命館附属校平和教育実践展示」報告
7. ミュージアム専門委員による立命館附属校平和教育研究会のあゆみ—2006～2011
8. 立命館大学国際平和ミュージアム専門委員—2006～2011
9. 編集後記 学校法人立命館一貫教育部副部長 大竹 昌幸

2) 立命館附属校平和教育実践展示の開催について

「立命館附属校平和教育研究会」では「平和は、『どこからやってくるもの』でも『与えられるもの』でもなく、『私たち自身の努力で創るもの』で

あるとの視点から、「立命館学園平和教育」という、初等・中等教育における包括的な平和教育カリキュラムを模索する試みを行っている。そこで、2005 年の国際平和ミュージアムのリニューアルで新設された「ミニ企画展示室」空間（9.5 × 3.9m 約 35 m²）を使って、「私たちに何ができるか」を考える場として、各校の平和教育実践展示を開催することとした。

毎年、「附属校平和教育専門委員会（附属校平和教育研究会）」で、各校の専門委員（教諭）（2019 年度専門委員 立命館小：伊藤 邦人、立命館中高：大井 喜代、立命館宇治中高：杉浦 真理、立命館慶祥中高：山口 太一、立命館守山中高：新谷 優太）が中心となり、継続的に、図工・社会・美術・道徳（立命科）・総合学習・文化祭・研修旅行等の事前事後学習や海外校との交流で取り組む授業内外の活動を通じて、「平和」の視点を、児童・生徒が思い思いに調べ、討議し、考えたことを表現した作品を数多く展示した。

こうした各校の実践活動を、『立命館大学国際平和ミュージアムだより』に「ミニ企画展示開催報告」として行うのとは別に、立命館大学国際平和ミュージアム紀要『立命館平和研究』第 15 号（2014 年 3 月発行）から、各校実践報告として継続して執筆を行っている。

以下、各号の「実践報告」のタイトルと執筆者を記す。

第 15 号（2014 年 3 月発行）「慶祥の平和学習」立命館慶祥中高 山口 太一

第 16 号（2015 年 3 月発行）「立命館高等学校 Super Global High School (SGH) の目指すもの」立命館高等学校 SGH 推進機構（代表 SGH 推進機構長 神野哲治）

第 17 号（2016 年 3 月発行）「私たちの手で世界を PEACE に：立命館附属校戦後 70 年企画」立命館附属校平和教育研究会 執筆代表：立命館宇治中高 杉浦 真理、一貫教育部 田中 博、立命館中高 竹中 宏文、立命館慶祥中高 山口 太一、立命館守山中高 箭内 健、立命館宇治中高 森

口等

第18号(2017年3月発行)「立命館守山中・高の10年間の平和教育の到達点と今後の課題」角原真

第19号(2018年3月発行)「立命館小学校の平和教育」糸井登

第20号(2019年3月発行)「慶祥の平和教育Ⅱ：グローバルな視点とローカルな視点からの学び」山口太一

3. 第13回立命館附属校平和教育実践展示の共通テーマ設定

毎年、「附属校平和教育実践展示」の開催については、国際平和ミュージアムの協力を得て、「附属校平和教育専門委員会(附属校平和教育研究会)」を開き、その年の展示開催方針および日程、展示概要等を決定している。2019年度第13回展示方針を確定するにあたっては、「第2期国際平和ミュージアムリニューアル」を目前にして、基本コンセプト、立命館学園の教育・研究と国際平和ミュージアムの役割、社会開放施設として求められる新たな役割や国際平和ミュージアムを取り巻く国内外情勢について、委員会で検討・共有した。

2015年9月、ニューヨーク国連本部において、「国連持続可能な開発サミット」が開催され、150を超える加盟国の首脳参加のもと、その成果文書として、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択された。アジェンダは、人間、地球及び繁栄のための行動計画として、宣言および目標を掲げた。この目標が、17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標(SDGs)」である。

国際平和ミュージアムの活動も、「SDGsが示す世界の実現」の原動力となるとともに、立命館の教育・研究の質的向上に貢献していくことが求められていると考え、「第13回附属校平和教育実践展示」の共通テーマを「私たちが目指す世界：立命館のSDGs」とした。SDGsの「市民社会が関与できる

仕組み」に着目し、附属各校の子どもたちが国内外の現地研修で学び、主体的に表現した作品を展示することとし、委員の教諭は、2019年8月1日に「国際平和ミュージアム附属校平和教育研究会」の第2回を開催し、SDGsについての学習会も行った。

【議題】

1. 講義「平和ミュージアムとSDGs」

吾郷 真一(立命館大学国際平和ミュージアム館長)

SDGsのような目標が達成されたならば、戦争の危険は格段に少なくなるはず。SDGsの特徴は、先進国も含め、主権国家だけでなく、企業、市民社会が関与する仕組みとなっていることだ。平和な世界をつくるためには、政府や軍隊に頼ることなく、市民社会が一丸となって、総合的な平和達成に向けて努力すべきである。国際平和ミュージアムの2階の展示はそのことを表しており、第2期リニューアルではさらにそのことを明確にしていきたい。

2. 報告「守山のSDGsの取り組みについて」

田辺 記子教諭(立命館守山中高)

SDGsの取り組みについて教育活動が「点」の状態、なかなか体系化されず、学校全体で取り組めていない状況が見受けられるなか、本校では「立命館守山のSDGs—持続可能な社会づくりへの挑戦—」を作成し、「ホールスクールアプローチ」による「ESD(持続可能な開発のための教育)」を全教員が認知し、全教科で実施している。

3. 初等中等教育における平和教育の課題と実践計画について

附属各校の平和教育の今年度計画、「第13回附属校平和教育実践展示案」を紹介し、それを受けて、小中高校生にどのような平和教育・平和学習を考えていくか、意見交換を行った。

一般的に初等・中等教育学校において、平和教育にかかる時間はどのように変化してきているのかとの吾郷館長からの質問に、「国際平和ミュージアムには多くの小中学校の児童・生徒が見学に来られるが、平和教育にかかる時間自体は減少しているとの

4. 立命館附属校平和教育実践展示の開催について



2019 年度第 13 回附属校平和教育実践展示の様子

2階「平和創造展示室」正面に「見附パネル」を設置した。「第13回立命館附属校平和教育実践展示 私たちが目指す世界：立命館のSDGs」のえんじ色の文字が目飛び込んでくる。

今回の展示について共通テーマを設定したことにより、会期中を通して、附属各校の展示パネル「挨拶文」を多様な来館者のために、初めて4言語（英語・日本語・中国語・韓国語）で作成することに挑



第 13 回立命館附属校平和教育実践展示

立命館学園には京都市に小学校、北海道、滋賀県、京都府下にそれぞれ4中高、計5つの附属校があります。今年の展示は「私たちが目指す世界：立命館のSDGs」を共通テーマとしました。「SDGs」の「市民社会が関与できる仕組み」に着目し、十代の子どもたちが国内外の現地研修で学び、主体的に表現した作品を展示しています。

The Ritsumeikan Academic Trust oversees a total of 5 affiliated schools, 1 primary school in Kyoto City and 4 junior & senior high schools in Hokkaido, Shiga and Kyoto prefectures.

The exhibition of affiliated school student works take as its theme "The World We Are Aiming For: Ritsumeikan SDGs." The focus of the exhibition is especially the goal of Global Partnerships for Sustainable Development, and gathered here are works of teenagers who have participated in both international and domestic study tours, and given expression to their thoughts and feelings in various forms. We invite you to engage with these works and appreciate these students' passion.

立命馆学园共包含 5 所附属学校。分别是，位于京都市的 1 所小学，以及分布于北海道、滋贺县和京都府的 4 所初高中。今年共同的展示主题是“我们追求的世界：立命馆的 SDGs”。着重于“SDGs”中的“能够参与市民社会的机制”，展示作品是 10-19 岁的孩子们在国内外实地研修中的所学，以充满主体性的作品方式展现。

리츠메이칸 학원 (学園) 에는 초등학교가 교토시에 1곳 있으며, 중학교가 홋카이도에 1곳, 시가현에 1곳, 교토부에 2곳으로, 총 5곳의 부속학교가 있습니다. 올해 열리는 전시의 공동 테마는 “우리가 지향하는 세계 : 리츠메이칸 SDGs”라는 주제로 정하였습니다. “SDGs”가 제창하는 “시민사회가 관여할 수 있는 구조”라는 말을 착안하여 심대 학생들이 국내외의 현정형수를 통하여 배운 성과를 주제로도 표현한 작품들을 전시하였습니다.

国際平和ミュージアム 第127回ミニ企画展示

挨拶文

戦した。

また、一般来館者にも立命館の附属校についての理解をしていただきやすいよう、学校所在地（江別市、守山市、京都市、宇治市、長岡京市）を印した地図や附属校の児童・生徒数を付した資料を作成するなど、1小4中高全体で、統一感・一体感のある展示パネルの作成も行った。

全体会期：2019年10月7日（月）～

12月13日(金) 53日間

立命館慶祥中学校・高等学校（北海道江別市）

〈写真 2 ～ 7〉

会期：10月7日～18日（10日間）

趣旨：音もなく忍び寄る戦争の気配を感じ取る感覚が必要です。「戦争とは何か」を丁寧に学び、平和な社会を持続するために貢献できる人材を育成します。

内容：中学2年生の夏期休暇課題として、「身近なところにある戦争」（身近な人と戦争、身近な地域と戦争、身近なモノと戦争）をテーマに、自分の地元や夏休みに訪問したゆかりの地について「調べ学習」を行いポスターにまとめた。生徒たちは、北海道にも戦争の爪痕・戦争遺跡が多く残っていることを学んだ。祖父母や曾祖父の代まで遡って戦争体験を丁寧に聞き取ったポスターには、年配の見学者からも感心の声が寄せられた。

事務局コメント：展示期間中、ポスターを制作した中学2年生187名と引率教諭13名が「京都研修」（10月15日～18日）に訪れた。10月16日には、元外務次官 藪中 三十二 立命館大学特別招聘教授の講演を聴講し、自校の展示会期中に「京都研修」が実施されたことで、国際平和ミュージアムで自分たちの作品が展示されているのを見学し、また同時開催されていた「世界報道写真展2019」も見学することができたことは、現代社会における戦争・紛争、環境、貧困問題についての問題意識を高められ有意義であった。

立命館中学校・高等学校（京都府長岡京市）

〈写真 8 ～ 13〉

会期：10月21日～11月1日（10日間）

趣旨：中学校では毎年文化祭で平和に関わる作品を制作し、中学2年生の冬季に実施する沖縄平和研修の事前学習を行っている。また、高校では「Sustainable Students 17 Possible Action（高校生にできる17の行動目標）」を完成させ、「キャンパスSDGs at NKC（長岡京キャンパス）」を展開している。

内容：

- ・文化祭での中学全体企画「平和の灯」：東日本大震災の被災地で作られている和紙を用いて「ランプシェイド」を制作し、平和や災害復興支援への思いのメッセージを書き加えた作品を展示
- ・中学1年生が美術科授業で「平和のイメージ」を抽象表現した水彩作品の展示
- ・中学2年生による沖縄平和研修（2020年2月実施）に向けた夏期休暇課題（事前学習）の「調べ学習」のポスター展示（沖縄の歴史、文化など）
- ・沖縄平和研修に参加した中学校美術部が合作した油彩作品「平和の祈り」の展示

事務局コメント：沖縄平和研修の主旨・研修内容・事前学習の様子解説を加えると、来館者にとってよりわかりやすいと思われる。また、今回の展示内容は中学生の活動が中心となっているが、毎年11月に開催されている「Rits Super Global Forum」の発表準備の様子など高校生の活動も紹介できれば、中高一貫校として展示内容が体系化されたものになると期待される。

立命館小学校（京都市北区）

〈写真 14 ～ 21〉

会期：11月3日～15日（11日間）

趣旨：小学校5年生が6月に尾道・広島を宿泊体験学習先として訪問した。その事前学習をもとに「私の中の平和」をテーマにポスターで表現した。平和な生活の実現に向けて、自分たちに何ができるかを考えた。

内容：小学校5年生児童121名による「私の中の平和」ポスターは、宿泊体験学習に向けて、社会科授業で戦争や原爆の背景を学習したり、英語科授業で「ピースブック」を作成したり、学級活動で千羽鶴を制作するなど、教科横断型を含む平和学習の成果として描かれたものである。事前・事後学習では、「自分の平和のイメージ」を「マインドマップ」で表現し、「ひと・もの・こと」の材料を集め、「ピースプレゼンテーション」

ン」を行い、学びを整理・深化している。

事務局コメント：小学校の高学年は全教科専科担当制であるが、毎年「ピース・ウィーク」を開催し、教科を超えた取り組みを学校全体で行っている点が特徴である。

立命館宇治中学校・高等学校（京都府宇治市） 〈写真 22～27〉

会期：11月18日～29日（11日間）

趣旨：宇治中高では、平和教育にSDGsを意識して取り組んでいる（SDGs Studies 紹介）。社会科学では、国内外の戦争・紛争・平和をめぐる諸問題を取り上げた。

内容：今回は東京で行われた「第18回東アジア青少年歴史キャンプ」（一般社団法人日韓経済協会主催）は、「青少年の歴史認識を深める学びと交流の積み重ねこそが、東アジアの平和と友好の歴史を切り拓く力になる」とのコンセプトで、そこへの生徒参加も回を重ねてきている。

恒例として宇治中高社会科が中心となって実施している「憲法平和集会」では、沖縄基地問題についての講演を受けて憲法条文を引きながら話し合いが行われた。

中学校3年生が夏期休暇課題として取り組んだ「平和新聞」では、「広島原爆」「世界で起きている戦争と子どもたち」、高校の「SDGs Studies 紹介」は、「脱プラスチック」「核兵器」「児童労働」をテーマにディスカッションした成果をポスターとして展示した。

事務局コメント：高校の「SDGs Studies 紹介」は、英語表記のみの活動紹介ポスターだが、日本語などのキャプションがあると、来館する日本の小学生にとってはなおよいと思われる。

立命館守山中学校・高等学校（滋賀県守山市） 〈写真 28～34〉

会期：12月2日～13日（11日間）

趣旨：守山中高はユネスコスクールに加盟し、「SDGsで“つなぐ”キャリア教育」をコンセプトに持続可能な開発教育の観点から、あらゆる

場面でSDGsを意識した教育を行なっている。

内容：「立命館守山のSDGs－持続可能な社会づくりへの挑戦－」SDGsの目標達成を目指した取り組みを紹介

- ・中学校2年生美術科「世界平和祈念ポスター」展示

- ・中学校2年生総合学習「沖縄平和研修」（2020年1月実施）の事前学習の様子の展示

- ・「グローバル教育と平和～ポーランド、ドイツピーススタディ」の紹介

高校1年生グローバルコースで「留学生が語る戦争認識」をテーマにポーランドからの留学生を交えた平和学習交流の様子の紹介

- ・中学校美術部制作のパキスタンの留学生との交流壁画「私たちが未来に向けてできること」の展示

- ・中学校1年生「世界一大きな授業～SDGs Target 4」

- ・立命館守山高校ボランティア団体「Pray For Japan」（PFJ）の活動紹介ポスターの展示「写真展 東日本大震災の記憶～「3.11」の“これまで”と“これから”」（2019年11月30日～12月8日 守山市立図書館で展示されたもの）

事務局コメント：地色をブルーにして統一感を持たせた活動紹介ポスター掲示など、見やすい展示への工夫が見受けられた。活動風景写真ごとのキャプションを加えたほうが、初めて守山中高の展示を見学される方にとって、よりわかりやすいと思われる。沖縄事前研修の成果物も展示したほうが全体としてさらに充実した展示となるだろう。中学校美術部のパキスタンの留学生との交流壁画「私たちが未来に向けてできること」は圧巻であった。

会期中の来館者のアンケートから（抜粋）

○北海道に関しては全く縁がなく、北海道における戦争についてリアルに知るきっかけとなり、貴重な作品です。大人と違って中学生の感覚が活かされていてとても新鮮でした。（京都府、70代

以上)

- 毎年立命館中高生の戦争に関する感想、伝聞、過去の遺品などが展示されているが、もし学校が例年の学習企画としてこれを織り込まなければ、過去の日本が戦争をした国であり、多くの加害、被害のあったことを知らぬままに成人してしまうだろうと考えると、貴重な学風といえると思う。(京都府、70代以上)
- 子どもさん独特の色使いが素晴らしかった。また、幸福・平和のメッセージがリアルに表現されていた。(京都府、70代以上)
- 中高生が実際に広島やドイツ、ポーランドで体験したことや自分たちで考えたことがまとめられていて、将来にわたって平和を築くための歩みを続けていってほしいと思いました。(埼玉県、40代)
- 皆さんの活動、学習、思考力、まとめる力はすばらしいです。visualization 可視化、他の人にわかってもらえるように伝え、協力する人、協力しあえる人をつくりだしていく、新しい方法を作り出していくことにつなげていってほしいです。また、プラスチック問題のところでは、どこにも「自分がすること」「自分は何をするか」についてのコメントがなく、抽象的だと感じました。日本には多くの自動販売機があり、どんどんプラスチックのお茶の容器が消費、すてられていっています。アメリカではペットボトルの再利用で使用したペットボトルにまたお水を入れてそれを持ち歩いて使っています。そういうことのできる給水機も学校、オフィス、空港にあります。今の気候危機を考えると、もう「待ったなし」のところまできています。この世界に生き続ける若い皆さん本当にたいへん。でもがんばりましょうね。一人ひとりが少しでもプラスチック容器を使いすてせずに使い続けて全体数を減らしていくこともできるでしょう。海は一滴の水のあつまりですね。(アメリカ、60代)
- 立命館守山中学校の美術部のみなさんがパキスタンの方々と平和への想いを込めて合作された絵

がとても心に響きました。異なる国で生まれ育ったとしても、同じ人間として世界の平和、友人の平和、家族の平和、自己の平和 etc. を願う気持ちは変わらないものなんだと実感された事と思います。この作品を拝見させていただき、そういう想いがとても伝わって参りました。私自身も、日々の生活の中でその想いを大切に生きていかなければいけない、日々こうして生きていられる事を“あたりまえ”だと思うことのないように、人とのつながりやご縁に感謝して生きていかなければならないと改めて思いました。美術部のみなさん、パキスタンの学生のみなさん、素敵な作品を有り難うございました。大切に心に刻みます。(滋賀県、40代)

- 各取り組みの紹介が非常にわかりやすく、写真と文字がバランス良くとても見やすい展示でした。多くの海外の留学生と生徒との学習の交流があることも魅力に感じました。青がとてもインパクトの強いもので、平和のブルースカイをもイメージできた展示でした。(京都府、立命館職員)

4. SDGs に関わる諸活動

今回の附属校平和教育実践展示以外の、今年度のSDGsの取り組みについて、その一部を以下に紹介する。

【立命館小】

英語科の授業で、“Bye Bye Plastic Project”として世界のプラスチック廃棄物の問題について考える授業を実施した。インドネシアでプラスチックごみ問題を解決しようと活躍する10代の姉妹の取り組みや、他国・地域や日本の現状について学び、今後自分たちにできることについて考えを深めた。

【立命館中高】

立命館高校では、昨年の「Rits Super Global Forum」(RSGF)で、「高校生にできる17の行動目標」を完成させた。「キャンパスSDGs at NKC

(長岡京キャンパス)」とは、たとえば「#5 ジェンダー平等を実現しよう」を『『らしさ』にこだわらず〈せっかく服装が自由な学校に通うのだから、男性も女性も〉、「#14 海の豊かさを守ろう」を「財布携帯マイバッグ〈レジ袋を誤って食べる魚を減らすための、お出かけ前の合言葉〉、「#15 陸の豊かさも守ろう」を「コピーは最低限の枚数で〈世界の森林を守るためにも紙の無駄遣いは厳禁!〉、「#16 平和と公正をすべての人に」を「自分の『正しさ』だけを信じないで!〈「正しさ」の数は1736通り(立命館中高の生徒総数)〉、など、高校生自身の言葉で行動目標を言い換えての掲示などの活動である。

【立命館宇治中高】

- ・「第2回全国高校生SR (Social Responsibility) サミット FOCUS」(2019年7月30日～8月1日、宇治中高・立命館大学びわこくさつキャンパス)と「AFTER FOCUS」(2020年1月25日、宇治中高)を開催した。

これは、高等学校等の教育活動の中で、国際貢献や地域貢献活動をどのように発展・継続させていくかをテーマに、社会課題の解決を目指して全国的に高いレベルの取り組みを行っている18校19チームの生徒が集まり、立命館アジア太平洋大学の国際学生とともに合宿形式で実施した「サミット」である。2020年1月25日の「AFTER FOCUS」では、前年の「第2回全国高校生SRサミット FOCUS」において発表・意見交換した社会課題解決案の進展状況について報告し、さらに実現可能性を高めたプロジェクトへとブラッシュアップしていくこととしている。

- ・「ツーリズム EXPO2019」(2019年10月24日～27日、会場：インテックス大阪)「責任ある観光(レスポンシブルツーリズム)」をテーマに、ハワイ州観光局との共同プロジェクトにより鴨川の清掃活動を行い、回収したごみで作った「ホヌ(ウミガメ)」のアートを展示した。これに先立ち、9月に高校生がハワイ島でのプラスチック

ゴミ収集などの「ビーチクリーン活動」に参加した。ハワイの海と日本の河川では環境は異なるものの、「ごみアート」を通じて、ごみが海洋生物・水棲生物に与える悪影響への理解を呼びかけた。

- ・「Revolution2020: Student Energy Summit」ハワイ州環境協会(2019年11月10日、11日)SDGs・エネルギー問題について、ホノルルマールキュリー高校との交流に、立命館附属3高校(宇治・慶祥・守山)から6名の生徒が参加した。

【立命館慶祥中高】

2019年4月28日、ホテルの里を守る環境ボランティアに中高の生徒45名が参加し、地域住民の方々と江別市の早苗別川、筋違川で清掃活動を実施した。「江別ホテルの会」は1987年に発足。立命館慶祥中高の生徒は、校舎が市内に移転した1997年から毎年清掃活動に参加している。

【立命館守山中高】

- ・立命館守山高校は、「高校生のための国際交流・国際協力 EXPO: ワン・ワールド・フェスティバル for Youth」の立ち上げ期から高校生実行委員として選出され、他校の高校生とともに企画の立案と運営を行っている。2018年は「環境問題と企業の取り組み」をテーマとし、プラスチック容器や輸送エネルギーなどを考えるワークショップを、株式会社ファミリーマートの協力を得て実施した。この様子は、「ユネスコアジア文化センター(ACCU)の機関誌『ACCU news』No.48(2019年6月号)にも紹介された。
- ・高校2年生アドバンスト理系クラス

2019年7月16日、滋賀県の立地を生かした琵琶湖でのフィールドワーク「湖上実習」で、南湖と北湖で1地点ずつ水質全般に関する調査を実施した。

- ・高校3年生アドバンスト理系クラス
- 「水環境ワークショップ」を2019年8月19日～21日に開催した。琵琶湖博物館での実習、琵琶湖の調査船での湖水・底泥・プランクトンの採取、

立命館大学びわこくさつキャンパスでの解析・実験・研究発表を行った。

【立命館地球市民会議】

立命館大学 Sustainable week 実行委員会主催

2019年9月10日～24日にかけて、立命館・立命館宇治・立命館守山・立命館慶祥の4高校で様々な形で実施した。本企画は、立命館大学課外自主活動団体助成制度〈プロジェクト助成〉の一環として、高校生と大学生、そして大学教員とのつながりを作るための活動として行なわれている。

【サイエンスアゴラ 2019】科学技術振興機構（JST）

（2019年11月15日～17日 会場：テレコムセンター）

11月16日、セッション「SDGs教育を受けた私たちの現在と未来」において、「立命館SDGs教育チーム（大学生・附属校生徒）」が発表を行なった。

中学校・高校でSDGs教育を受けた卒業生自身がその内容を紹介し、どのような学びがあり、現在の活動にどのように活かしているか、キャリアデザインにはどのような影響があったのかを語った。また、教員側もSDGs教育の意図や生徒の学びの効果を紹介した。さらに生徒と教員がパネルディスカッションや会場との対話を行い、早期のSDGs教育の重要性や改善点、自ら行動できる人になるためにどうすればよいかについての議論を行った。

5. 附属校平和教育研究会のこれから～研究会や展示活動の方向性～

2030年、今の14歳は24歳になっている。「国際平和ミュージアム第2期リニューアル検討委員会」は来館・見学者や国際平和ミュージアムでの体験的学びの対象者として「14歳」を想定している。2020年の東京オリンピック・パラリンピックから10年が経ち、ユニバーサルデザインは実生活に根差しているだろうか。「SDGs」は目標達成しているはずだが、どの程度実現しているだろうか。政界や経済界、教育界等における女性の意思決定機関で

の活躍は普通のこととなっているだろうか。LGBTQ+をはじめさまざまな面でのダイバーシティ&インクルージョンが当たり前の社会となっているだろうか。平和に向けての具体的な解決は進んでいるだろうか。

附属校平和教育実践展示では、立命館の附属校で行っている平和教育の一部しか紹介できないが、今年度は初めて共通テーマを設定し、「SDGs」を掲げた。教学理念「平和と民主主義」はすべての授業や行事、児童・生徒の自主自立や自治活動の根底に存在している。この理念を、児童・生徒の学びを支える教職員が身近なものとして常にイメージしながら、子どもたちが具体的に、まず初等中等教育段階で行動すること、既存の枠組みで動いている社会に向けて子どもたち自身の表現で発信すること、同時にそれが双方向性を持つことが重要だと考える。

ところで、今日、ある中学1年生から「先生、戦争が始まるの？」と質問された。2020年1月初め、「アメリカがイラクを攻撃し、その報復としてイランが在イラク米軍基地を弾道ミサイルで攻撃した」との報道を受けてのことだ。次にその生徒は「自分は戦争に行かなければならないの？」と発した。一つ目の質問は不安としてもっともなものだと受け取れるが、二つ目の質問は、現代の戦争は「戦地に赴いて戦う」性質のものばかりではないことを、どの程度、今の子どもたちは実感できているのだろうか、世界情勢や他国・地域の暮らしの現況、戦争・紛争、貧困などの実情についての認識は、日常的には何によって更新されているのだろうかという疑問が生じるものだった。言い換えれば、学校教育のなかの行事や道徳の授業だけで、近現代の政治、宗教、戦争・紛争について、「正しい」あるいは「最新」とされる認識を多角的に「学ぶ」あるいは「教える」ことは極めて困難なことではないかということである。

しかし、立命館の附属校では「Active Learnersが巣立つ」ことを目標としながら、海外校と共同科学研究や友好を目的にした国際交流の機会、多彩な留学プログラムへの参加や留学生を迎えて日常的に学校生活をいっしょに送る機会があり、立命館大学

(RU) の留学生や立命館アジア太平洋大学 (APU) の国際学生が附属校を訪問して授業をしてくれる機会、RU の高大連携企画や APU での「学びのキャンプ」のようなオープンキャンパスなども用意されている。これこそ、5 万人を超える多様な児童・生徒・学生・教職員が学び働く総合学園の強みだ。

そして附属各校の平和教育活動を次の段階へ進めるためには、附属校実践展示自体を、児童・生徒主体の発案・企画・運営へと移していくことも今後考えられるだろう。

平和な世界を希求する主体者として、「Active Learners が巣立つ、附属校平和教育」が新たなステージを迎えるために、子どもたちの豊かな感性や自由な発想に沿って、教職員もこれまでの枠組みにとらわれることなく新たな教育に、さまざまな境界を超えて挑戦し続けたい。すでに大学生や社会人になっても活動を続ける卒業生・先輩の存在が、附属校生の今後の活躍の一つのモデルとなっている。これからも立命館の附属校で学んだ卒業生は、一市民として、世界のどこかで誰かと連帯し、次世代のさらなる平和創造につながる仕事や活動をしていくことと確信している。

【第13回立命館附属校平和教育実践展示の様子】

立命館慶祥中学校・高等学校



写真2 ポスター：札幌市時計台を守り続ける



写真3 ポスター：曾祖父と戦争



写真4 ポスター：千秋庵と六花亭

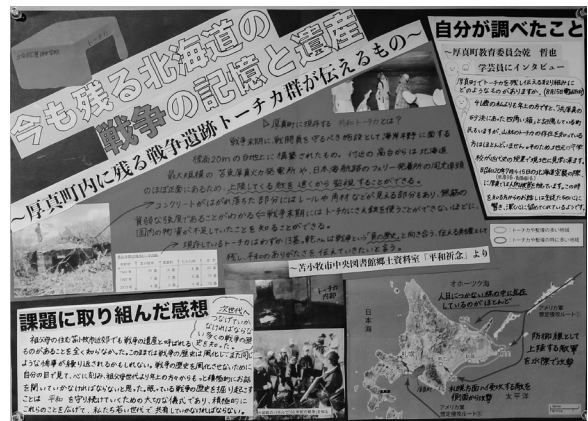


写真5 ポスター：今も残る北海道の戦争の記憶と遺産～厚真町内に残る戦争遺跡トーチカ群が伝えるもの

写真2～5 「身近なところにある戦争」ポスターの一部



写真6



写真7

写真6～7 夏期課題「身近なところにある戦争」ポスターを見学する慶祥中学校2年生の生徒



写真8 文化祭中学校全体企画「平和の灯」ランプシェード
(東日本大震災の被災地で作られている和紙を使用した作品)



写真9 立命館中学校美術部合作 油彩「平和の祈り」



写真10 立命館中学校2年生 沖縄平和研修(2020年2月)に向けた調べ学習ポスターの一部

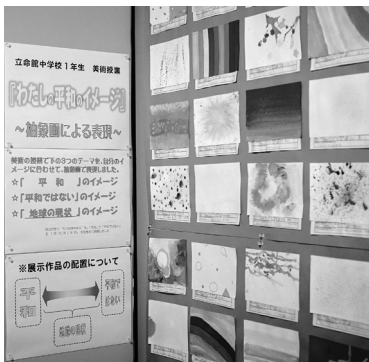


写真11



写真12

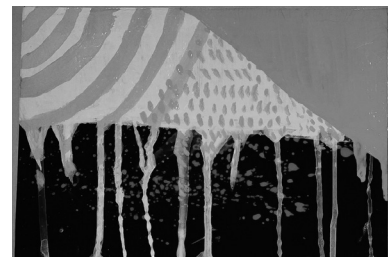


写真13

写真11～13 立命館中学校1年生 美術授業「わたしの平和のイメージ」(抽象画による表現)の一部

立命館小学校



写真 14 立命館小学校平和教育の様子



写真 15



写真 16

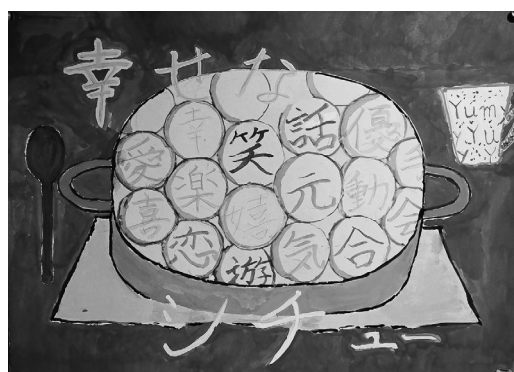


写真 17



写真 18



写真 19



写真 20

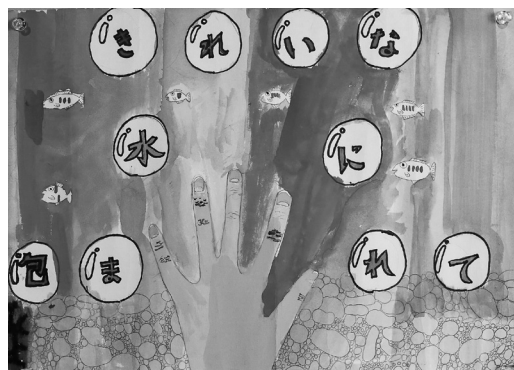


写真 21

写真 15 ～ 21 小学校 5 年生「私の中の平和」ポスター
(2019 年 6 月の尾道・広島体験学習に向け、事前学習の一環として思い思いに描いた絵画)

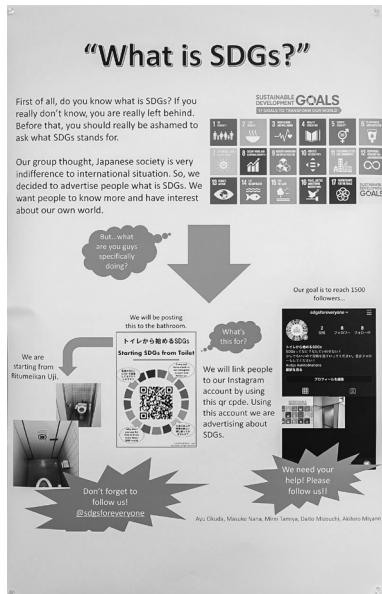


写真 22



写真 23

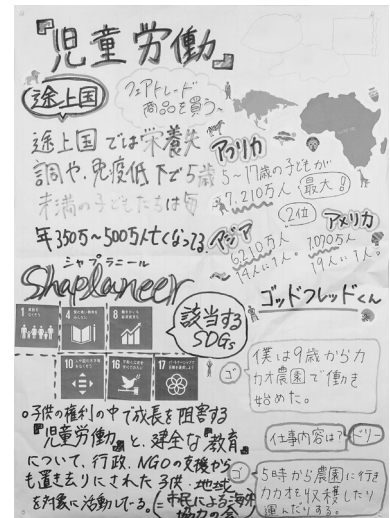


写真 24 SDGs Studies で「児童労働」について発表した生徒のポスター

写真 22 ～ 24 立命館宇治高校の SDGs Studies ポスター

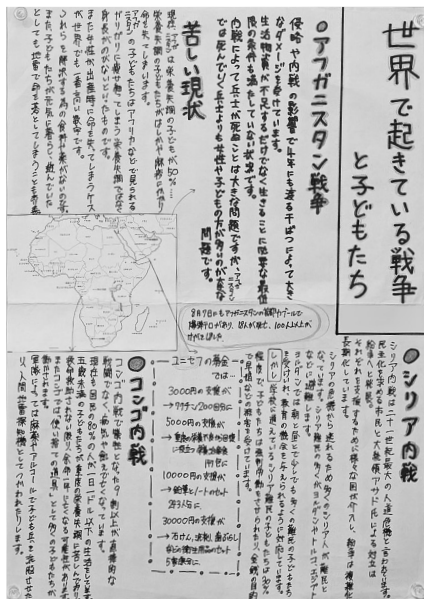


写真 25 課題学習／平和新聞（中学校 3 年生）「世界で起きている戦争と子どもたち」



写真 26 「第 18 回東アジア青少年歴史体験キャンプ in 東京」写真集(2019 年 8 月)

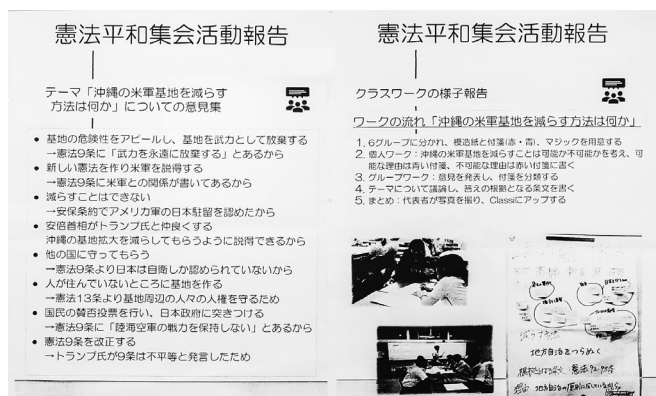


写真 27 憲法平和集会活動報告

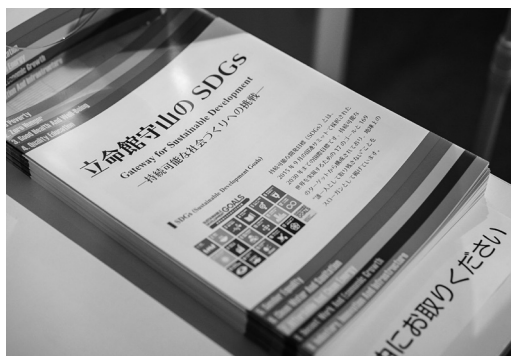


写真 28 リーフレット「立命館守山のSDGs-持続可能な社会づくりへの挑戦」



写真 29 高校1年生「グローバル教育と平和」ポーランドの留学生が語る戦争認識の授業



写真 30 立命館守山高校ボランティア団体「Pray For Japan」の活動紹介



写真 31 中学校2年生 世界平和祈念ポスター



写真 32



写真 33

写真 32～33 立命館守山中高・Modernage Public School&Colledge Pakistan 交流の様子



写真 34 「私たちが未来に向けてできること」
Modernage Public School&Colledge Pakistan との合作壁画（美術部制作）